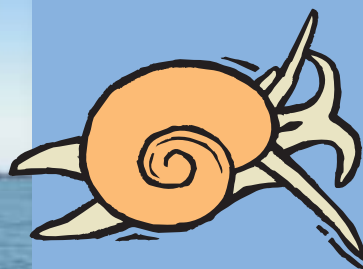
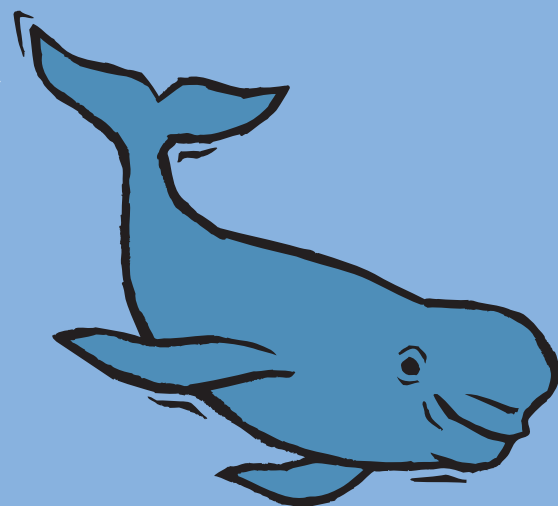


# 上関

## かみのせき 瀬戸内海の豊かさが 残る最後の場所

豊かな生物相と高い生産力に恵まれた瀬戸内海。その豊かさがほとんどの場所で失われた今も、上関のまわりには、驚くほど多様な生物が残っています。ここでの原子力発電所建設計画について、生物学研究者の三学会(日本生態学会、日本鳥学会、日本ベントス学会)は、もっと慎重な環境アセスメントを求める要望書を提出しました。その内容を一般に紹介します。



日時 2010年1月10日(日) 13:30 ~ 16:30

会場 広島国際会議場「ヒマワリ」

広島平和記念公園内 TEL082-242-7777

《参加費:無料》

プログラム(13:00会場 / 13:30開会)

はじめに「上関原子力発電所建設計画のあらまし」

佐藤正典(鹿児島大学)

講演1「周防灘に残されている瀬戸内海の内原風景」

加藤 真(京都大学)

講演2「希少な鳥類について」

飯田知彦(九州大学大学院)

三学会の要望書の説明

安溪遊地(日本生態学会上関問題要望書アフターケア委員会委員長)

佐藤重穂(日本鳥学会鳥類保護委員会副委員長)

向井宏(日本ベントス学会前会長)

コメント1「陸上生物、里山の観点から」

野間直彦(滋賀県立大学)

コメント2「生物多様性保全の視点から」

花輪伸一(WWFジャパン)

コメント3「生物多様性条約に基づく国の政策」

国会議員(調整中)

主催 / 日本生態学会 自然保護専門委員会

日本鳥学会 鳥類保護委員会

日本ベントス学会 自然環境保全委員会

後援 / (財)日本自然保護協会

(財)世界自然保護基金(WWF)ジャパン

ラムサール・ネットワーク日本

問い合わせ先 /

083-928-5496(安溪)

099-285-8169(佐藤)

e-mail: sato@sci.kagoshima-u.ac.jp